

研究機関名：東北大学

受付番号： 2016-1-236

研究課題名 学童期の遊びがその後の共感性に与える影響

実施責任者（所属部局・分野等・職名・氏名）：

医学系研究科・小児看護学分野・教授・塩飽 仁

研究期間 西暦 2016年 7月（倫理委員会承認後）～ 2017年 3月

対象材料

過去に採取され保存されている人体から取得した試料

病理材料（対象臓器名： ） 生検材料（対象臓器名： ）

血液材料 遊離細胞 その他（ ）

■研究に用いる情報

カルテ情報 アンケート その他（ ）

対象材料の採取期間：西暦 2016年 7月～西暦 2016年 11月

対象材料の詳細情報・数量等：

（対象疾患名や数量等の詳細を記すこと。多施設共同研究の場合は、全体数及び本学での数量等を記すこと。）

東北大学の学生約 600 人に調査を行う。

研究の目的、意義

幼少期は集団行動を学び共感性が発達する重要な時期である。特に遊びは他児や周りの大人達と関わる大きな機会として挙げられ、遊びを通して人と関わり方について学べることは多いと考えられる。そして学童期は小学校入学前と比較して、休み時間や放課後に自由に遊びを選べるが多くなるなど、遊びの内容にも個人差が出ると考える。

これまでに、幼児の共感的行動の規定因についての事例的検討（石井ら、2015）では、子どもの共感的反応を起こす要因は父親か母親かという違いではないという結果が明らかになっており、子どもとの接し方の量や質が共感的行動に影響しているということが推測されている。他にも、母子の絵本遊びが子どもの共感性発達に与える影響に関する研究など、共感性の発達に関して様々な観点からの研究が見られる。しかし、学童期に行った異なる特色のある遊びとその後の共感性の発達を結び付けて行われた研究は見られない。

以上から、本研究は大学生が学童期にどのような遊びを行っていたか調査し、また現在の共感性を測定することによって、学童期の遊びとその後の共感性の発達の関連性を知ることが目的とする。調査は、学童期に行っていた遊びを記憶しており、且つ共感性の発達という観点において十分に時間を経過していると考えられることから、大学生を対象に行う。

この結果から、共感性の発達という観点から遊びの意義について検討することができる。と考える。

実施方法

無記名の自記式質問紙調査を行う。東北大学川内北キャンパスで行われる全学教育の授業終了後に、文書及び口頭にて調査の概要や同意確認の方法（回答した質問紙の提出を以て研究への参加の同意とみなすこと）を説明する。調査説明後、質問紙を配布する。記入後は回収箱に提出してもらおう。質問紙への回答に要する時間は約 10 分であり、1 人 1 回限りとする。

この調査に協力するかどうかは、対象者本人の自由意思によって決めることができる。調査に協力しないことで、成績に影響するなど不利益が生じることはない。なお、この調査は無記名調査のため回答者を特定することはできないことから、回答後に対象者本人または代諾者から拒否の申出があっても対応できない。

研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手・閲覧方法

本研究の研究計画書及び研究方法に関する資料を入手・閲覧したい場合は、「本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口」にご連絡ください。

個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

保有個人情報の利用目的の通知に関するお問い合わせ先：

「本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口」

※注意事項

以下に該当する場合にはお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の1(3)>

①利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合

②利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、当該研究機関の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合

個人情報の開示等に関する手続

無記名調査のため、回答した質問紙の提出後は質問紙から個人を特定することはできません。そのため、個人情報を開示することはできません。

本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻小児看護学分野

E-mail : inquiry@chn.med.tohoku.ac.jp TEL/FAX : 022-717-7921 (研究室直通)

研究責任者：塩飽 仁 (しわく ひとし)